

2月 9日(日) ショートメッセージ

聖書 マタイによる福音書 13章10節～17節 (新約 24頁)

メッセージ 「たとえを用いて語る」

しかし、あなたがたの目は見えているから幸いだ。あなたがたの耳は聞いているから幸いだ。
(マタイによる福音書 13章16節)

(1) 本日の聖書日課の主題は「たとえで語るキリスト」です。イエス様はしばしばご自身の教えをたとえで語りました。

マタイによる福音書13章にはイエス様が語られた七つのたとえが収められています。最初に記されているのは「種を蒔く人」のたとえです。イエス様が群衆にこのたとえを語られた後、場面はイエス様と弟子たちだけの会話になります。

(2) 弟子たちはイエス様のところに近寄って来ると、「なぜ、あの人たちにはたとえを用いてお話しになるのですか」と尋ねました。するとイエス様は弟子たちに答えます。「あなたがたには天の国の秘密を悟ることが許されているが、あの人たちには許されていないからである」(11節)。

そしてイエス様は、天の国の秘密を悟ることが許されている者と許されていない者との、「持っている人、持っていない人」としてその差がますます広がると厳しく指摘します。だから、「見ても見ず、聞いても聞かず、理解できない」(13節)彼らにはたとえを用いて語るのだと言います。さらにイエス様はこの理解することが許されない者たちによって、預言者イザヤによる預言の言葉が実現したとすら言います。

イエス様は、天の国の秘密を語っても、それを理解することが許されている者と許されていない者とがあるために「たとえ」で語ると弟子たちに伝えていきます。たとえでしか聞かされていない群衆が聞くと悲しくなるような理由です。

ところで、マタイ福音書の中の群衆につ

いて考えたいと思います。その教えを聞き、癒やしを求めてイエス様の周りに集まってきたのも群衆ですが、扇動されてイエス様を十字架に架けろと叫んだのもまた群衆です。使徒言行録を読むと、初代キリスト者たちを支持したのも群衆ですが、苦しめたのもまた群衆です。初代教会の群衆に対する複雑な思いを感じます。「たとえ」は教えを伝えるために有効な伝え方であると同時に、本質は隠されてしまうという負の側面もあります。この箇所では語られているのは、「たとえ」の負の側面でしょう。

16節でイエス様は弟子たちに、「しかし、あなたがたの目は見えているから幸いだ。あなたがたの耳は聞いているから幸いだ。」と弟子たちを祝福し、17節で「はっきり言うておく。多くの預言者や正しい人たちは、あなたがたが見ているものを見たかったが、見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞きたかったが、聞けなかったのである。」と伝えます。ここでイエス様は、群衆に対して複雑な思いを抱えながらも、弟子たちには信頼の言葉をかけておられるのです。

(3) 弟子たちと群衆との違いは何でしょうか。それは、ひとりひとりと丁寧な関わりを持てるかどうかではないでしょうか。

より多くの人たち、群衆に天の国の秘密、福音を伝えたいとの思いは大切です。しかし、それはひとりひとりとの丁寧な関わりを通してこそ伝えられるものであると、この箇所は私たちに語りかけているのではないのでしょうか。(多田玲一牧師)